

平成25年度

石巻市教育委員会の活動状況
に関する点検及び評価報告書

平成25年8月

石巻市教育委員会

平成25年度教育委員会の活動状況に関する点検及び評価の実施について

<p>目的</p>	<p>教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果を議会に報告するとともに公表し、もって市民に対する教育行政の説明責任を果たし、適正かつ効果的な教育行政の運営に資する。</p>
<p>根拠法令</p>	<p>・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (昭和31年法律第162号)</p> <p>第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。</p> <p>2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。</p>
<p>主な内容</p>	<p>① 点検・評価の対象</p> <p>平成24年度に実施した石巻市総合計画実施計画及び石巻市震災復興基本計画実施計画掲載事業のうち、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業、将来に渡り長期的に継続していくべき事業として、学校教育分野で9事業、社会教育・保健体育分野で5事業の合計14事業について、点検・評価の対象とした。</p> <p>② 点検・評価の方法等</p> <p>教育委員会各課等が、平成24年度石巻市総合計画実施計画及び石巻市震災復興基本計画掲載事業における取組実績、成果等の評価を行う。この結果を基に、評価内容について学識経験者からの意見聴取を行った。</p> <p>また、その結果については、市議会に報告するとともに市ホームページに掲載し公表する。</p> <p>③ 学識経験者の活用方法</p> <p>平成25年度は選定した事業について、点検・評価内容に対する意見聴取（実質チェック）という形での活用を図る。</p>

1 平成25年度 点検評価対象事業

番号	所属	事業名
1	学校教育課	国際理解教育推進事業
2	学校教育課	適応指導教室運営事業
3	学校教育課	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業
4	学校教育課	防災教育充実事業
5	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
6	学校教育課	石巻・子どもの未来づくり事業
7	学校教育課	いじめ・生徒指導問題対策事業
8	学校管理課	学校図書整備事業
9	学校管理課	学校施設耐震補強事業
10	生涯学習課	少年指導者育成事業
11	生涯学習課	コラボスクール推進委託事業
12	生涯学習課	青少年文化芸術鑑賞事業
13	体育振興課	スポーツ振興事業
14	中央公民館	家庭教育学級開設事業

2 学識経験者からの意見聴取会実施内容

(1) 開催日時 平成25年7月24日(水) 午後2時開会

(2) 開催場所 本庁舎仮設11会議室

(3) 学識経験者 2名

氏名	役職等
菅井 吉秀氏	元住吉中学校校長
米谷 正信氏	NPO法人石巻市体育協会理事

(4) 意見聴取会に用いた資料

資料名
平成25年度(平成24年度事業対象)教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料
<参考>平成24年度事務事業評価シート
<参考>平成23年度決算「主要な施策の成果」

(5) 意見聴取会の進行

番号	内容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について、事務局より説明
2	・平成24年度事業実績説明 「平成25年度(平成24年度事業対象)教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の目的及び事業内容、取組実績、成果、成果に係る評価について、担当課より事業ごとに説明
3	・質疑応答 学識経験者から、取組実績等について質問、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見
	※1事業ごとに番号2～4を行う形式で進行
5	・学識経験者からの全体を通しての総括的意見
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

3 学識経験者からの意見

○総括的意見

【菅井吉秀氏】

・様々な事業に取り組んでおられ、本当に御苦労様です。学校現場では先生方の役割が年々重くなっており、行事も増え続けている状況であります。また、教育委員会や地域から依頼される仕事も多いので、先生方が本来すべき仕事に集中して取り組めるようにしていただきたい。教育行政でも同様に本当に必要な事業を見直し、事業を厳選して実施していただきたい。

・報告書の中で成果等の記載の仕方が統一されていないので、今後、改善していくべきと思います。

【米谷正信氏】

・各事業全般において概ね適正に推進されていると思います。ただし、各種研修会や協議会等の実態については見えにくいところがありました。また、各種研修会の実施については質の高い研修になるようお願いしたい。

・社会問題化している、いじめや不登校等の対策については粘り強く継続的な指導をお願いしたい。

・学力向上、国際理解教育等については一層力を入れていただきたい。

・震災後の心のケアについても引き続きお願いするとともに、未来を担う子ども達に希望を持たせる事業をできるだけ多く企画していただきたい。

・必要な事業にはできるだけ多くの予算を確保していただきたい。

○事業ごとの意見

・点検及び評価対象事業ごとに記載

事業番号		1	事業名		国際理解教育推進事業費											
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()									
	1 項	教育総務費		第3節	新たな時代を創造する人材を育成する		()									
	3 目	教育指導奨励費		(1)	広い視野を持つ人材をはぐくむ		()									
目的及び事業内容		<p>幼稚園、小中学校及び高等学校におけるALT（外国語指導助手）を活用しての授業や交流を通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図る。</p> <p>1 市立中学校・高等学校における外国語教育の充実 2 市立小学校における外国語活動の充実 3 市立幼稚園・けやき教室における国際理解教育の推進</p>														
取組実績		<p>1 ALT10名を市立中学校・高等学校に配置し、外国語学習指導と国際理解教育活動の充実を図った。 ・中学校、高等学校とも、週1～3回程度の配置で、1日当たり5時間程度の授業を行った。 また、JETプログラムのALTについては、部活動等課外活動にも意欲的に取り組み、授業以外の場面でも生徒と積極的に接した。</p> <p>2 市立幼稚園・小学校・けやき教室を訪問し、外国語活動や国際理解教育の充実を図った。 ・幼稚園、けやき教室については、月1回程度の配置で、英語を使った活動等を行った。 ・小学校については、5・6年生で行われている外国語活動の授業に合わせて週1回程度配置し、担任教師と連携しながら、児童が楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養えるよう活動をした。</p>														
成果		<p>ALTを中学校、高等学校を中心に小学校・幼稚園・けやき教室にも配置し、外国語活動や外国語教育、国際理解教育を推進することができた。また、前年度より割合は低下したものの、引き続き概ね高い水準で授業を「楽しい」と感じる生徒の割合を維持できており、外国語学習に対するモチベーションを高めることに大いに貢献している。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）</td> <td>82.0%</td> <td>85.0%</td> <td>79.0%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H22	H23	H24	ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	82.0%	85.0%	79.0%
主な指標項目	H22	H23	H24													
ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合（中学1・2年生）	82.0%	85.0%	79.0%													
成果に係る評価		<p>平成23度から小学校で外国語活動が完全実施され、ALTと担任が協力して外国語活動の授業の充実に取り組んでいる。小学校においては、ALTとの授業が楽しいと感じる児童の割合は86.3%である。中学校においても、1年生については、81.9%と80%を超えているが、学力差が顕著になってくる2年生においては、74.9%で英語という教科そのものに対する苦手意識が、数値に表れ、他の学年に比べ低い値になっている。学校によっても差が見られるので、ALTの指導力を含め今後の改善について考えたい。 また、今後もALTをJET（外国青年招致事業による任用）からNon-JET（民間事業者への業務委託）に段階的に切り替えていく予定であるが、実施に当たっては、その効果を比較検証したうえで取り組んでいくこととしたい。</p>														
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 国際理解教育推進事業なので、会話だけでなく海外の文化や礼儀を指導の中に入れていただき、子ども達が学べるようにしていただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 外国語教育は重要なことであるので、時代の変化に乗り遅れることのないよう力を入れて取り組んでいただきたい。</p>														
予算の執行状況		（単位：円）														
		予算額	決算額	決算額の財源内訳												
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源									
		44,725,317	44,272,486				44,272,486									

事業番号		2	事業名		適応指導教室運営事業																			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																	
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																	
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																	
目的及び事業内容		<p>不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。</p> <p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携 2 児童生徒の実態等に応じた学習指導 3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実</p>																						
取組実績		<p>1 通所児童生徒との教育相談及び学校、保護者との連携 通所児童生徒や保護者との定期的教育相談や懇談会を行ったほか、機会を捉えての相談等も行って悩み等に受容的に対応した。</p> <p>2 児童生徒の実態等に応じた学習指導 (1) 通所児童生徒一人ひとりの実態や学年を踏まえ、適切な教材を準備し、個に応じた指導・支援を行った。 (2) 在籍校との連携を深め、学級担任との連絡を密に行ったほか、適応指導教室での定期考査受験や学校で使用しているプリントでの学習などにより、帰属感の育成を図った。</p> <p>3 望ましい人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実 絵手紙教室、英会話教室、書道教室、調理実習、清掃活動や仲間づくり活動等の体験活動を通して、仲間とともに活動する楽しさや成就感の醸成が図られた。</p>																						
成果		<p>教育相談活動や学習活動、体験活動の充実、保護者や学校との連携強化により、児童生徒の再登校への意欲を高め、一定の成果をあげている。 しかし、適応指導教室通所児童生徒の状況は個々によって多様であり、再登校に向けての糸口を見つけることは難しくなっている。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数</td> <td>78件</td> <td>77件</td> <td>93件</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の再登校率</td> <td>18.1%</td> <td>18.1%</td> <td>25.0%</td> </tr> <tr> <td>通所児童生徒の部分登校率(再登校者を含む)</td> <td>81.8%</td> <td>54.5%</td> <td>62.5%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H22	H23	H24	不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	78件	77件	93件	通所児童生徒の再登校率	18.1%	18.1%	25.0%	通所児童生徒の部分登校率(再登校者を含む)	81.8%	54.5%	62.5%
主な指標項目	H22	H23	H24																					
不登校児童生徒の保護者、担任等との相談件数	78件	77件	93件																					
通所児童生徒の再登校率	18.1%	18.1%	25.0%																					
通所児童生徒の部分登校率(再登校者を含む)	81.8%	54.5%	62.5%																					
成果に係る評価		<p>平成24年度の不登校児童生徒は小・中合わせて216人となり、昨年度とほぼ同数である。各学校で改善の努力はしているが、指導が困難な事例も多く、不登校児童生徒の減少には至っていないことから、専門的な対策チームを構成して本人や家庭に積極的に働きかける必要がある。</p> <p>そのため、適応指導教室を基盤とし、市民相談センター相談員、不登校対応相談員、スクールソーシャルワーカー、青少年育成員、いじめ・生徒指導問題対策委員会委員、民生委員・児童委員協議会委員らをメンバーとする市立小・中学校不登校児童生徒対応協議会を設置し、対策に当たっていくとともに、不登校傾向の児童生徒及びその保護者への調査を行い、原因の解明及び対応策の確立を目指す。</p>																						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今までいじめにあった生徒は多いと思います。また、いじめは人間が生きている限り根絶されることのない永遠のテーマであると考えております。子ども達がどのような教育を受けてきたかを考えることが必要であります。保護者がきちんと子どもを指導すべきであり、幼児期から指導していくべきであります。また、幼児期の子どもを持つ保護者を対象とした研修などに力を入れていくべきであると思います。</p> <p>【米谷正信氏】 不登校への対応は本当に大変であると思います。不登校児童生徒の再登校率が上昇しているという一定の成果があるので、今後も引き続き取り組んでいただきたい。</p>																						
予算の執行状況		(単位：円)																						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																	
		4,452,000	4,419,513			341,000	4,078,513																	

事業番号		3	事業名		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業																							
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																					
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																					
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施																					
目的及び事業内容		<p>カウンセラーの相談活動により、生徒・保護者・教職員の心理面における安定を図るとともに、生徒の健全育成に資する。</p> <p>1 スクールカウンセラーの配置 2 生徒・保護者・教職員・学区内小学生等の要望に応じたカウンセリングの実施 3 カウンセラーを活用してのカウンセリング研修等の実施</p>																										
取組実績		<p>1 スクールカウンセラーの配置 中学校全21校に配置（中学校カウンセラー及び広域スクールカウンセラー） 小学校にも28校に配置（広域スクールカウンセラー）</p> <p>2 カウンセリングの実施状況 (1) 中学校 年間35日、小学校 年間1～35日 (2) 1日のカウンセリング実施時間（県で決定） 6時間</p> <p>3 カウンセリング研修等の実施 各学校で研修日を設定して実施 （内容）カウンセリング実技研修、カウンセリング理論、エンカウンター実習など</p>																										
成果		<p>多くの学校にスクールカウンセラーが配置されたことにより、スクールカウンセラーに相談できる体制が整備されつつある。それが、相談件数の増加につながっており、震災後の心のケアも含め、学校や家族の問題等の解決の一助としての役割を担っている。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>3,514件</td> <td>3,631件</td> <td>5,420件</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>3,972人</td> <td>4,094人</td> <td>5,984人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <thead> <tr> <th colspan="2">H24相談人数割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童生徒</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>29.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>24.5%</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H22	H23	H24	相談件数	3,514件	3,631件	5,420件	相談人数	3,972人	4,094人	5,984人	H24相談人数割合		児童生徒	46.2%	教職員	29.3%	保護者	24.5%
主な指標項目	H22	H23	H24																									
相談件数	3,514件	3,631件	5,420件																									
相談人数	3,972人	4,094人	5,984人																									
H24相談人数割合																												
児童生徒	46.2%																											
教職員	29.3%																											
保護者	24.5%																											
成果に係る評価		<p>相談の件数、人数とも右上がりの傾向である。より多くの学校に配置できたことが成果につながっていると思われる。配置校の児童・生徒・保護者・教職員からの相談に対応することが、積極的な生徒指導につながっていく一面もあり、今後も継続的な配置が必要である。また、震災後の心のケアの面からも、引き続きカウンセラーによる相談体制の充実を図っていくことが重要である。</p>																										
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 必要な事業であると考えますので、引き続き実施していただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 先生方の力量を高めながら、スクールカウンセラーの活用を図っていただきたい。</p>																										
予算の執行状況		(単位：円)																										
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																								
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																					
		573,000	352,852			352,852																						

事業番号		3	事業名		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業																																			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																	
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																																	
	3 目	教育指導奨励費		()		(3)	子どものケアの実施																																	
目的及び事業内容		<p>カウンセラーによる相談活動を通して、生徒・保護者・教職員の精神的安定を図るとともに、問題行動等の未然防止や解決による生徒の健全育成に資する。</p> <p>1 ハイスクールカウンセラーの配置 2 生徒・保護者・教職員へのカウンセリングの実施 3 学校におけるカウンセリング講座等の支援活動</p>																																						
取組実績		<p>1 ハイスクールカウンセラーの配置 市立高等学校2校に配置 2 生徒・保護者・教職員の要望に応じたカウンセリングの実施 1日6時間、年間30日の勤務を原則とし、月平均2～3日の勤務体制でカウンセリングを実施した。 3 カウンセリング講座等の支援活動 (1) 教職員・生徒を対象としたカウンセリングに関する講座の実施 (2回) (2) 教育相談情報交換会・ケース会議 (6回) の実施</p>																																						
成果		<p>生徒の不安や悩みの状況に応じたカウンセリングが実施されており、生徒の心の安定を図る上で効果的に機能している。また、カウンセラーと教職員との情報交換やケース会議等を通じて、学校内で連携が取られ、心の問題を抱える生徒に対して適時な対応を行うことができた。特に支援が必要な生徒については、カウンセラー・教育相談係・養護教諭・担任等との連携により、本人及び保護者に対するアドバイス等を行うことで成果が上がっている。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>244件</td> <td>245件</td> <td>292件</td> </tr> <tr> <td>相談人数</td> <td>342人</td> <td>314人</td> <td>358人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>H24相談人数内訳</th> <th>生徒</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>女子高校</td> <td>87人</td> <td>74人</td> <td>7人</td> <td>168人</td> </tr> <tr> <td>女子商業高校</td> <td>58人</td> <td>125人</td> <td>7人</td> <td>190人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>145人</td> <td>199人</td> <td>14人</td> <td>358人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 生徒の相談内容は、多い順に、「家族関係」、「学校生活」、「人間関係・友人関係」である。 ※ 教職員の相談件数は、「情報交換」が127件、「生徒の対応」が5件、「その他」が1件、合計133件である。 ※ 「震災関係」の相談件数は、生徒が2件である。</p>							主な指標項目	H22	H23	H24	相談件数	244件	245件	292件	相談人数	342人	314人	358人	H24相談人数内訳	生徒	教職員	保護者	計	女子高校	87人	74人	7人	168人	女子商業高校	58人	125人	7人	190人	計	145人	199人	14人	358人
主な指標項目	H22	H23	H24																																					
相談件数	244件	245件	292件																																					
相談人数	342人	314人	358人																																					
H24相談人数内訳	生徒	教職員	保護者	計																																				
女子高校	87人	74人	7人	168人																																				
女子商業高校	58人	125人	7人	190人																																				
計	145人	199人	14人	358人																																				
成果に係る評価		<p>多感な時期にある高校生は心にかかる悩みも多く、カウンセリングによって支えられる部分も大きい。生徒の心を安定させ、落ち着いた学校生活を送らせるためには、カウンセラーによる相談体制を維持することが重要である。特に、震災後3年目に生徒の問題行動がピークとなると言われており、ハイスクールカウンセラー配置事業の効果は大きく、今後も継続が必要である。</p>																																						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今後も引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 今後も引き続き取り組んでいただきたい。</p>																																						
予算の執行状況		(単位：円)																																						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																	
		1,889,000	1,846,700			1,846,700																																		

事業番号		3	事業名		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置事業																																																			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる																																																	
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる																																																	
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施																																																	
目的及び事業内容		<p>小中学校における相談体制や関係機関との連携体制の充実を図り、不登校対応を中心に、暴力行為、児童虐待などの問題行動の早期対応や早期解決を図る。</p> <p>1 問題を抱える児童生徒が置かれた環境（家庭や学校等）に対して面談などの働き掛けを行う。 2 児童相談所などの関係諸機関とのネットワークの構築と連携や調整に努める。 3 市内小中学校における校内での支援体制やチーム体制の整備の支援を行う。 4 市内小中学校の教職員・保護者への相談や研修会等での啓発活動・情報提供に努める。</p>																																																						
取組実績		<p>スクールソーシャルワーカーについて</p> <p>1 スクールソーシャルワーカーは4名が配置されており、児童生徒や家庭の状況を踏まえ、ケースごとに児童相談所や市民相談センターなどの関係機関と連携して対応している。 また、震災後の児童生徒のケアについても、学校に配置されているスクールカウンセラーと連携することはもとより、児童精神科医とも連携しており、専門的な見地から適切な対応がなされるよう働き掛けている。</p> <p>○配置状況(平成25年3月末現在) 4名配置</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>拠点校</th> <th>勤務時間、日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>門脇小・大川小</td> <td>1日 6時間、週3日</td> </tr> <tr> <td>向陽小・青葉中</td> <td>1日 6時間、週2日</td> </tr> <tr> <td>稲井中</td> <td>1日 6時間、週2日</td> </tr> <tr> <td>石巻市教育委員会</td> <td>1日 6時間、週1日</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 訪問活動：学校205回、家庭320回 ケース会：15件53回 教職員との連携：130件 連携した機関：児童相談所30件、医療機関39件（学校の要請に応じて対応している。）</p>							拠点校	勤務時間、日数	門脇小・大川小	1日 6時間、週3日	向陽小・青葉中	1日 6時間、週2日	稲井中	1日 6時間、週2日	石巻市教育委員会	1日 6時間、週1日																																						
拠点校	勤務時間、日数																																																							
門脇小・大川小	1日 6時間、週3日																																																							
向陽小・青葉中	1日 6時間、週2日																																																							
稲井中	1日 6時間、週2日																																																							
石巻市教育委員会	1日 6時間、週1日																																																							
成果		<p>1 スクールソーシャルワーカーの仕事内容が学校及び関係機関に理解され、連携がスムーズになった。 2 問題を抱える児童生徒の家庭訪問等を行い、少しずつ登校できるようになった。 3 震災の影響で子どもに目を向ける余裕のない保護者の話をじっくり聞くことにより、気持ちの余裕が出てきた。 4 教員に対してコンサルテーションを行うことにより、教員の悩みを共有することができた。 5 スクールソーシャルワーカーを4名配置することにより、これまでできなかった様々なケースにも対応できた。</p> <p>○支援対象児童生徒数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な指標項目</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>14人</td> <td>23人</td> <td>68人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>6人</td> <td>21人</td> <td>91人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○相談内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>相談内容</th> <th>件数</th> <th>問題が解決</th> <th>支援中で好転</th> <th>支援中</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不登校</td> <td>60件</td> <td>6件</td> <td>28件</td> <td>20件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>暴力、非行・不良行為</td> <td>25件</td> <td>6件</td> <td>10件</td> <td>3件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>児童虐待</td> <td>12件</td> <td>7件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>家庭環境の問題</td> <td>31件</td> <td>4件</td> <td>12件</td> <td>12件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>							主な指標項目	H22	H23	H24	小学生	14人	23人	68人	中学生	6人	21人	91人	相談内容	件数	問題が解決	支援中で好転	支援中	その他	不登校	60件	6件	28件	20件	6件	暴力、非行・不良行為	25件	6件	10件	3件	6件	児童虐待	12件	7件	2件	2件	1件	家庭環境の問題	31件	4件	12件	12件	3件	その他	7件	3件	4件	0件	0件
主な指標項目	H22	H23	H24																																																					
小学生	14人	23人	68人																																																					
中学生	6人	21人	91人																																																					
相談内容	件数	問題が解決	支援中で好転	支援中	その他																																																			
不登校	60件	6件	28件	20件	6件																																																			
暴力、非行・不良行為	25件	6件	10件	3件	6件																																																			
児童虐待	12件	7件	2件	2件	1件																																																			
家庭環境の問題	31件	4件	12件	12件	3件																																																			
その他	7件	3件	4件	0件	0件																																																			
成果に係る評価		<p>不登校、暴力行為をはじめとする問題行動等や家庭環境に起因する様々な問題、また、震災後の心のケアに資する問題等、スクールソーシャルワーカーが対応する問題は多岐にわたる。学校だけでは解決できない問題をスクールソーシャルワーカーが介入することによって、児童生徒、保護者、教職員それぞれが助けられている。スクールソーシャルワーカーの活動が理解され、学校と一体となって問題に対応するようになってきている。</p>																																																						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今後も連携して児童生徒の問題行動等へ対応していく必要があると思います。また、スクールソーシャルワーカーについて全教員へ周知することが大事であり、情報共有に努めていただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 スクールソーシャルワーカーを増員していただき、多くの問題に対応していただきたい。</p>																																																						
予算の執行状況		(単位：円)																																																						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																																	
		8,371,000	7,776,262	7,776,262																																																				

事業番号		4	事業名		防災教育充実事業		
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のための伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる
	1 項	教育総務費		第 節		(1)	未来の人を育てる
	7 目	東日本大震災関係費		()		(3)	子どものケアの実施
目的及び事業内容		<p>地域ぐるみの防災教育の実践を通して、非常時においても地域との絆が生かされる基盤を形成し、子どもにとって安心、安全な地域環境づくりを進めるとともに、教材等の作成を通して、児童生徒が災害と向き合い、たくましく生きる災害対応能力の育成を促進する。</p> <p>1 地域ぐるみの防災教育の推進 2 児童生徒の災害対応能力の育成のための学校教材等の作成</p>					
取組実績		<p>1 学校防災推進会議の設置と協議 学校、関係機関、市担当部局、学識経験者による学校防災推進会議を設置し、東日本大震災における学校防災の検証と、これからの在り方について協議を行った。協議結果を基に各機関において、今後の学校や地域の連携及び関係機関の協力について検討し、実践を図ることとした。</p> <p>2 防災教育副読本の発行 本市の実態に即した防災教育推進のための、防災教育副読本を作成することとし、防災教育副読本編集委員会を設置した。発達段階に応じた防災教育が実践できるよう、平成24年度第1学期に、小学校下学年、小学校上学年、中学校用の上巻を発行することとし、編集作業を行った。2学期には同じく下巻を発行することとし、編集作業を行うとともに、年間指導計画例を作成した。</p>					
成果		<p>学校防災について、関係者が一堂に会して、これまでの課題や今後の取組について話し合うことにより、協働して学校防災の充実に取り組む態勢づくりを進めることができた。各学校においては、学校や地域の実情を踏まえ、学校防災のための地域との連絡会議を開催したり、従来から実施している避難訓練において、高台避難を想定した第三次避難を新たに加えたりするなどの取組を行っている。</p> <p>また、防災教育副読本の上巻を平成24年度第1学期に、下巻を第3学期に発行するとともに、年間指導計画案を作成し、各校での活用を促した。また3月には平成25年度版として、上下巻を合本したものを作成し、配布した。</p>					
成果に係る評価		<p>学校防災推進会議等により、学校と地域の合同避難訓練の実施等を働きかけ、学校と地域の連携による学校防災の一層の充実を図る必要があるほか、防災教育副読本を活用して、児童生徒の防災対応能力の育成を図る必要がある。</p> <p>また、今後は防災教育副読本の指導事例集を作成することにより、より効果的かつ計画的な活用を促していく。</p>					
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 防災教育副読本を学校でどのように活用しているかが重要であり、それをチェックすべきであると思います。また、防災教育をしっかりと理解していただく必要があると思います。</p> <p>【米谷正信氏】 研修等の場で情報交換を積極的に行い、防災教育を充実していただきたい。</p>					
予算の執行状況		(単位：円)					
		予算額	決算額	決算額の財源内訳			
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源
2,779,480	2,582,860	1,660,929		921,931			

事業番号		5	事業名		特別支援教育支援員配置事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()	
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()	
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()	
目的及び事業内容		<p>通常学級に在籍している発達障害を持つ児童の日常生活支援及び学習指導補助を行うため、学校に支援員を配置する。</p> <p>1 小中学校への支援員の配置 2 当該児童への支援の工夫</p>						
取組実績		<p>1 支援員の配置状況 市内小・中学校 29校に配置 石巻小、住吉小、門脇小、湊小、湊第二小、釜小、山下小、蛇田小、渡波小、稲井小、向陽小、貞山小、開北小、万石浦小、大街道小、中里小、鹿妻小、飯野川第一小、大谷地小、広淵小、須江小、北村小、前谷地小、和淵小、鹿又小、中津山第二小、相川小、大原小、蛇田中</p> <p>2 通常学級における当該児童への支援 通常学級に在籍する、知的障害、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症、選択的緘黙、ダウン症等の子どもたちへの学習・生活支援をするなどし、担任教員の指導補助を行った。各学校では、学級や個人への支援のあり方について研修するなどして、支援員の活用を工夫した。</p> <p>3 特別支援教育支援員研修会の実施 支援員を対象に、宮城県特別支援教育センターから講師を招聘し、「発達障害のある子とのかかわり方」について研修会を開催した。また、分科会に分かれて、日常支援の様子等について情報交換をした。</p>						
成果		<p>特別な支援を必要とする子どもの実情等に応じた学習・生活指導についての充実が図られた。また、支援対象児童の保護者や教職員から、「支援が充実したことで安心できる、感謝している」という声が多く寄せられている。</p> <p>また、研修会を実施したことで、支援員としてのスキルの向上を図るとともに、各学校に配置された支援員との情報交換をすることができ、支援員にとっては有意義なものであった。</p>						
成果に係る評価		<p>特別支援教育は、これまでの特殊教育の障害だけでなく、通常学級における特別な支援の充実が求められていることから、特別支援教育支援員の存在は、障害をもつ児童生徒への支援や学級への学習指導等の充実につながるなど、大きな成果をあげている。学校や保護者からは、事業拡充を望む声が非常に大きく、今後、支援員の配置人数の拡充が必要である。</p>						
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今後も一層の事業の充実をお願いしたい。</p> <p>【米谷正信氏】 必要なところに全て配置できるようにしていただきたい。</p>						
予算の執行状況		(単位：円)						
		予算額	決算額	決算額の財源内訳				
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
38,841,600	38,801,136			38,801,136				

事業番号		6		事業名		石巻・子どもの未来づくり事業				
予算科目	10 款	教育費		総合計画	第 2 章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち		復興計画	()	
	1 項	教育総務費			第 1 節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する			()	
	3 目	教育指導奨励費			(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ			()	
目的及び事業内容		<p>石巻市立小・中学校長会と連携し、児童生徒の学力の向上及び未来を生き抜く志の育成を図る。</p> <p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置 「教員の指導力の向上」、「児童生徒の学習習慣の形成」、「小中連携による一貫した教育の充実」の具体的方策について検討し、事業を行う。</p> <p>2 小・中学校校長会との連携 支会校長会ごとに本事業の目的達成のための計画を立て実践する。</p> <p>3 子どもの未来づくり推進地区連絡協議会の設置 各地区の取り組み内容について情報交換し、より効果的な方策を検討する。</p>								
取組実績		<p>1 子どもの未来づくり推進委員会の設置取組</p> <p>(1) 学力調査結果の分析等に基づき、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成の在り方等について検討し、中学校区ごとに家庭学習の進め方について、リーフレットを作成し働きかけた。</p> <p>(2) 子どもの未来づくりフォーラムを2回実施し、児童生徒、保護者、教員がともに話し合い、意識を高めた。</p> <p>(3) 家庭学習・生活習慣リーフレットの内容及び活用状況を検証し、内容を改善していくことを確認した。</p> <p>(4) 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果をまとめ、「事業報告書、実践事例集」にまとめ、活用を図った。</p> <p>(5) 志を強く持って生き抜くための具体的な実践として、小中学校が連携して弁論大会や体験活動の交流会等を実施した。</p> <p>2 小・中学校との連携及び子どもの未来づくり推進地区の取組</p> <p>(1) 学力向上のため、学校と家庭との連携や家庭学習習慣形成等の実践研究を実施した。</p> <p>(2) 地区内での情報共有や共同実践について話し合い、講演会や研修会を実施した。</p> <p>(3) 実践成果発表会において、各地区の取組について発表し、情報を共有した。</p>								
成果		<p>1 小学校と中学校が合同で研修会や授業研究会を実施し、小・中連携の推進が図られた。</p> <p>2 事業実施手法等の工夫により、より専門性の高い講師による研修会を実施する地区が増え、研修の充実を図ることができた。</p> <p>3 各推進地区で作成した家庭学習カードの活用を通して、学校と家庭が連携する必要性について啓発が図られた。</p> <p>4 被災によって連携事業が困難となった学校が多かったが、それぞれ工夫して校区にとらわれない連携を行った。</p>								
成果に係る評価		<p>各地区の事業報告から推察すると、教職員の教科指導力の向上や小・中連携の推進については一定の成果があると思われるが、生活習慣や家庭学習習慣の形成については、被災前の状況に早く戻すことを第一に考え、家庭との連携の在り方を工夫しながら取り組みを継続していく必要がある。また、家庭学習の手引きなど、作成したものをさらに有効に活用することや、小・中学校での9年間を見通した教育実践を進めていく必要がある。</p>								
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今後も引き続き継続して実施していただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 今後も継続して実施し、学力向上に繋げていっていただきたい。</p>								
(単位：円)										
予算の執行状況		予算額		決算額		決算額の財源内訳				
						国(県)支出金	地方債	その他	一般財源	
		3,619,000		3,004,475					3,004,475	

事業番号		7	事業名		いじめ・生徒指導問題対策事業																							
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																					
	1 項	教育総務費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()																					
	3 目	教育指導奨励費		(2)	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ		()																					
目的及び事業内容		<p>いじめや不登校、その他の生徒指導に関する問題に組織的に対応するため、関係機関等との連携を推進するほか、教員や保護者対象の研修を通して「いじめを許さない風土づくり」を進め、いじめの未然防止及び早期解決を図る。</p> <p>1 いじめ生徒指導問題対策委員会の実施 2 いじめの防止や解決にかかる研修会の実施 3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 4 「Stopいじめ！石巻市子どもサミット」の実施</p>																										
取組実績		<p>1 いじめ・生徒指導問題対策委員会の実施 市内の生徒指導上の諸問題について、19名の委員が3回の情報交換を行ったほか、有効な連携の在り方について協議した。</p> <p>2 いじめ・生徒指導問題対策にかかる研修会の実施 (1) 生徒指導上の課題である不登校問題に対応するため、市内教職員・保護者を対象に講演会を実施した。 (2) 不登校児童生徒の増加に伴い、小・中学校の生徒指導担当者・養護教諭等を対象にして、市内の実態把握に努めるとともに、事例をもとに話し合いを行い、関係機関担当者から助言等受けることにより、各校での不登校対策の取り組みに活かすための研修会を3回実施した。</p> <p>3 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 いじめ防止標語（小・中・高）、いじめ防止メッセージ（中・高）を募集し、メッセージ集を作成して各学校や関係機関に配布し、意識啓発に努めた。</p> <p>4 「Stopいじめ！石巻市子どもサミット」については、震災の影響により実施できなかった。</p>																										
成果		<p>(文部科学省実施の平成24年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>いじめの件数</th> <th>解消件数</th> <th>解消率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>57件</td> <td>42件</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>37件</td> <td>37件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>98件</td> <td>83件</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table>							区分	いじめの件数	解消件数	解消率	小学校	57件	42件	74%	中学校	37件	37件	100%	高校	4件	4件	100%	計	98件	83件	84%
区分	いじめの件数	解消件数	解消率																									
小学校	57件	42件	74%																									
中学校	37件	37件	100%																									
高校	4件	4件	100%																									
計	98件	83件	84%																									
成果に係る評価		<p>いじめの認知件数については、滋賀県大津市のいじめ事件以来、文部科学省の調査等の通知により、各学校から計上されてくる件数も大きく増加した。いじめ件数の増加については、定期的に調査を行うなど、各学校がこれまで以上に、いじめの把握に力を注いだ結果だと認識している。これまで見過ごしていたとはいかないまでも、目の届かなかった部分にも行き届くようになったものと認識している。いじめの解消率は、小学校で約74%、中学校においては100%となっている。いじめ発覚後、一丸となって解決に向けて努力した様子が伺える。今後は、いじめの件数を減らすことはもちろんのこと、起きたときの対応として、学校をあげてその解決、解消に努める必要がある。日ごろの道徳の授業をベースに、道徳教育の充実に全力で取り組むよう各学校に働き掛ける。また、これまで以上に教員のもつアンテナを高くしながら、子どもたちの様子等を把握していく必要がある。</p>																										
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 いじめは永遠の課題でありその根絶は難しいと思います。しかし、いじめを減らすことはできるので、そのための方法を考え取り組んでいただきたいと思います。また、教師がいじめや生徒指導問題に重点的に取り組めるようにゆとりを持たせる方策を検討していただきたいと思います。</p> <p>【米谷正信氏】 今後も継続して実施していただきたいと思います。また、教師にゆとりを持たせる方策を検討していただきたいと思います。</p>																										
予算の執行状況		(単位：円)																										
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																								
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																					
		739,000	405,313				405,313																					

事業番号	8		事業名	学校図書整備事業（小学校）											
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()								
	2 項	小学校費		第1節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()								
	2 目	教育振興費		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		()								
目的及び事業内容	<p>全国的な傾向である小中学生の読書離れが進む中、文部科学省では子どもの読書活動の推進や学校教育における言語力の涵養に資するためには、学校図書館の充実が必要であるとの認識に基づき、平成24年度から平成28年度までの5年間を新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」として整備を推進している。本市も学校教育の中で、学校図書を積極的に活用し、児童生徒の読書活動を一層推進することにより豊かな人格形成、基礎的な言語力を育む等、学習効果の向上を図るために、市内小中学校の学校図書を整備するもの。</p>														
取組実績	<p>市内全ての小学校において、学校図書館標準書数に対する充足率が100%となることを目標とし、低充足率の学校に予算を重点配分したことによる購入のほか、厚意での図書の寄附による整備により学校図書の充実を図った。</p> <p>なお、寄附冊数が激増し緊急経済対策事業による整備を行った平成23年度に比べ、整備冊数は減少となった。</p> <p><小学校図書の整備冊数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,072冊</td> <td>10,009冊</td> <td>32,143冊</td> <td>17,276冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 寄贈含む。</p>							H21	H22	H23	H24	9,072冊	10,009冊	32,143冊	17,276冊
H21	H22	H23	H24												
9,072冊	10,009冊	32,143冊	17,276冊												
成果	<p>学校図書の整備充実を図り、学習活動に積極的に活用することにより学習効果が図られ、児童が自ら進んで言葉を学び、感性・表現力・創造力等の生きる力がより育成された。</p> <p>なお、被災した学校の図書整理が平成24年度になってから本格的に行われたことから、廃棄数が取得数を上回り一時的に充足率が低下したものの、新しい図書の購入も進み蔵書内容が充実してきた。</p> <p><小学校図書の充足率></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>67.54%</td> <td>70.84%</td> <td>76.59%</td> <td>75.65%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成24年度末での充足率50%以上達成校 37校</p> <p>※ 充足率は市内小学校の平均である。</p>							H21	H22	H23	H24	67.54%	70.84%	76.59%	75.65%
H21	H22	H23	H24												
67.54%	70.84%	76.59%	75.65%												
成果に係る評価	<p>学校図書を学習活動に積極的に活用し、学習効果の向上を図るには、児童の課題解決に沿った図書が整備充実され、いつでも気軽に利用できるような環境を整えることが必要である。学校図書整備はその基本となる事業であり、今後とも読書環境の整備に努めたい。</p>														
学識経験者からの意見	<p>【菅井吉秀氏】 各学校へ図書の活用をより高めるよう指導していただきたい。また、地域や家庭に眠っている使用していない図書を寄贈していただくなどの方法を検討していただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 蔵書数の充足率向上だけでなく、整備した図書を子ども達に読んでもらえるよう、図書内容の充実を図っていただきたい。</p>														
予算の執行状況	(単位：円)														
	予算額	決算額	決算額の財源内訳												
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源									
9,500,000	9,424,310				9,424,310										

事業番号		8	事業名		学校図書整備事業（中学校）											
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 2 章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()									
	3 項	中学校費		第 1 節	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する		()									
	2 目	教育振興費		(3)	充実した教育を行える環境をつくる		()									
目的及び事業内容		全国的な傾向である小中学生の読書離れが進む中、文部科学省では子どもの読書活動の推進や学校教育における言語力の涵養に資するためには、学校図書館の充実が必要であるとの認識に基づき、平成24年度から平成28年度までの5年間を新たな「学校図書館図書整備5カ年計画」として整備を推進している。本市も学校教育の中で、学校図書を積極的に活用し、児童生徒の読書活動を一層推進することにより豊かな人格形成、基礎的な言語力を育む等、学習効果の向上を図るために、市内小中学校の学校図書を整備するもの。														
取組実績		<p>市内全ての中学校において、学校図書館標準書数に対する充足率が100%となることを目標とし、低充足率の学校に予算を重点配分したことによる購入のほか、厚意での図書の寄附による整備により学校図書の充実を図った。</p> <p>なお、寄附冊数が多く緊急経済対策事業による整備を行った平成23年度に比べ、整備冊数は減少となった。</p> <p><中学校図書の整備冊数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,720冊</td> <td>10,576冊</td> <td>10,475冊</td> <td>7,832冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 寄贈含む。</p>							H21	H22	H23	H24	7,720冊	10,576冊	10,475冊	7,832冊
H21	H22	H23	H24													
7,720冊	10,576冊	10,475冊	7,832冊													
成果		<p>学校図書の整備充実を図り、学習活動に積極的に活用することにより学習効果が図られ、生徒が自ら進んで言葉を学び、感性・表現力・創造力等の生きる力がより育成された。</p> <p><中学校図書の充足率></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>59.56%</td> <td>68.22%</td> <td>61.29%</td> <td>64.95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成24年度末での充足率50%以上達成校 18校 ※ 充足率は市内中学校の平均である。</p>							H21	H22	H23	H24	59.56%	68.22%	61.29%	64.95%
H21	H22	H23	H24													
59.56%	68.22%	61.29%	64.95%													
成果に係る評価		学校図書を学習活動に積極的に活用し、学習効果の向上を図るには、生徒の課題解決に沿った図書が整備充実され、いつでも気軽に利用できるような環境を整えることが必要である。学校図書整備はその基本となる事業であり、今後とも読書環境の整備に努めたい。														
学識経験者からの意見		【菅井吉秀氏】 有効活用されるような図書を整備していただきたい。 【米谷正信氏】 読書習慣が身に付くように指導していただきたい。														
予算の執行状況		(単位：円)														
	予算額	決算額	決算額の財源内訳													
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源										
	12,500,000	11,600,934				11,600,934										

事業番号		9	事業名		学校施設耐震補強事業（小学校）			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる	
	2 項	小学校費		第 節		(1)	未来の人を育てる	
	1 3 目	学校管理費 学校建設費		()		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興	
目的及び事業内容		児童の安全確保を最優先とし、H16～H19年度に実施した耐震診断の結果を踏まえ大規模な地震により倒壊又は崩壊する危険性があるとされる I S 値0.7未満の施設を、「石巻市立学校施設耐震化整備計画」に基づき耐震補強工事を実施する。						
取組実績		1 耐震補強工事実施校 (1) 蛇田小学校校舎 (2) 釜小学校屋内運動場 (3) 須江小学校屋内運動場 2 改築事業 (1) 石巻小学校屋内運動場設計業務委託等						
成果		耐震補強工事を実施した事により、児童が安心して安全に学習できる環境が拡大した。 また、学校施設は災害発生時の避難場所として重要な役割を担っているが、本事業により地域住民に安心と安全を提供する事ができた。						
成果に係る評価		学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、また、地域住民にとっては学習・文化・スポーツなどに利用する公共施設及び災害発生時の避難場所として重要な役割を担っている。 今回、「石巻市立学校施設耐震化整備計画」に基づき、学校施設の耐震化を着実かつ計画的に実施したことで、児童生徒の安全を守り、良好な教育環境の確保を図るとともに地域住民の安全と安心の確保に寄与した。						
学識経験者からの意見		【菅井吉秀氏】 計画どおり完了するよう取り組んでいただきたい。 【米谷正信氏】 計画どおり完了するよう取り組んでいただきたい。						
		(単位：円)						
予算の執行状況	予算額		決算額		決算額の財源内訳			
					国(県)支出金	地方債	その他	一般財源
	173,061,900		100,400,779		33,434,000	47,700,000		19,266,779

事業番号		9		事業名		学校施設耐震補強事業（中学校）			
予算科目	10 款	教育費		総合計画	第 章	復興計画	(4)	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる	
	3 項	中学校費			第 節		(1)	未来の人を育てる	
	1 目 3 目	学校管理費 学校建設費			()		(1)	学校教育・社会教育施設等の復旧・復興	
目的及び事業内容		生徒の安全確保を最優先とし、H16～H19年度に実施した耐震診断の結果を踏まえ大規模な地震により倒壊又は崩壊する危険性があるとされるIS値0.7未満の施設を、「石巻市立学校施設耐震化整備計画」に基づき耐震補強工事を実施する。							
取組実績		1 耐震補強工事実施校 (1) 蛇田中学校屋内運動場							
成 果		耐震補強工事を実施した事により、生徒が安心して安全に学習できる環境が拡大した。 また、学校施設は災害発生時の避難場所として重要な役割を担っているが、本事業により地域住民に安心と安全を提供する事ができた。							
成果に係る評価		学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、また、地域住民にとっては学習・文化・スポーツなどに利用する公共施設及び災害発生時の避難場所として重要な役割を担っている。 今回、「石巻市立学校施設耐震化整備計画」に基づき、学校施設の耐震化を着実かつ計画的に整備したことで、児童生徒の安全を守り、良好な教育環境の確保を図るとともに地域住民の安全と安心の確保に寄与した。							
学識経験者からの意見		【菅井吉秀氏】 計画どおり完了するよう取り組んでいただきたい。 【米谷正信氏】 計画どおり完了するよう取り組んでいただきたい。							
予算の執行状況		(単位：円)							
		予算額	決算額	決算額の財源内訳					
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
236,838,100	101,333,913	40,127,000	35,200,000			26,006,913			

事業番号		10	事業名		少年指導者育成事業																																																																				
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																																																		
	6 項	社会教育費		第2節	地域全体で子どもたちを育成する		()																																																																		
	1 目	社会教育総務費		(2)	青少年を健全に育成する		()																																																																		
目的及び事業内容		<p>子ども会活動等地域における望ましい体験活動の指導・支援を行う青年ボランティアとしてのジュニア・リーダー及びインリーダーの育成を通して、青少年の健全育成を図る。</p> <p>宮城県教育委員会が定める「ジュニア・リーダー初級研修内容」に準拠した研修会を開催し、ジュニア・リーダー（中高生）を養成する。受講修了者には宮城県教育委員会が発行するジュニア・リーダー手帳及び初級研修修了証を授与する。</p> <p>市内子ども会育成会等から要請を受けボランティアとして派遣、子どもたちの指導等を行う。</p>																																																																							
取組実績		<p>1 ジュニア・リーダー育成のための研修会の実施、支援</p> <p>(1) ジュニア・リーダー初級研修会の主催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>実施場所</th> <th>修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初級研修会 I</td> <td>7月21日（土）～23日（月）</td> <td>花山少年自然の家</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) ジュニア・リーダー中級研修会及び上級研修会への参加支援</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>実施場所</th> <th>修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中級研修会</td> <td>8月17日（金）～18日（土）</td> <td>県志津川自然の家</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上級研修会</td> <td>12月25日（火）～27日（木）</td> <td>県志津川自然の家</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) ジュニア・リーダーのスキルアップのための研修事業参加支援及び研修機会の創出</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>事業名</th> <th>開催日</th> <th>実施場所</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回代表者会議</td> <td>6月17日（日）</td> <td>県青年会館</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東北子ども会JL大会</td> <td>8月3日（金）～5日（日）</td> <td>仙台市泉ヶ岳少年の家</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>石巻市JL研修会</td> <td>8月8日（水）～10日（金）</td> <td>京都市内</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>みやぎJL交流会（第1回）</td> <td>5月20日（日）</td> <td>岩沼市体育館</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第1回JLフェスティバル</td> <td>9月22, 23日（土・日）</td> <td>東仙台小学校</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第2回代表者会議</td> <td>12月2日（日）</td> <td>県青年会館</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>宮城県JL技術研修会</td> <td>7月1日（日）・10月7日（日）</td> <td>県青年会館</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 ジュニア・リーダーのボランティア活動支援</p> <p>市内子ども会育成会等から要請を受けボランティアとして派遣、子どもたちの指導等を行った。</p> <p>団体による申請数：79回 派遣したジュニア・リーダー数（延べ）：366人 会員数：104人</p>							No.	事業名	開催日	実施場所	修了者	1	初級研修会 I	7月21日（土）～23日（月）	花山少年自然の家	8人	No.	事業名	開催日	実施場所	修了者	1	中級研修会	8月17日（金）～18日（土）	県志津川自然の家	16人	2	上級研修会	12月25日（火）～27日（木）	県志津川自然の家	5人	No.	事業名	開催日	実施場所	参加者	1	第1回代表者会議	6月17日（日）	県青年会館	2人	2	東北子ども会JL大会	8月3日（金）～5日（日）	仙台市泉ヶ岳少年の家	1人	3	石巻市JL研修会	8月8日（水）～10日（金）	京都市内	29人	4	みやぎJL交流会（第1回）	5月20日（日）	岩沼市体育館	2人	5	第1回JLフェスティバル	9月22, 23日（土・日）	東仙台小学校	8人	6	第2回代表者会議	12月2日（日）	県青年会館	1人	7	宮城県JL技術研修会	7月1日（日）・10月7日（日）	県青年会館	5人
No.	事業名	開催日	実施場所	修了者																																																																					
1	初級研修会 I	7月21日（土）～23日（月）	花山少年自然の家	8人																																																																					
No.	事業名	開催日	実施場所	修了者																																																																					
1	中級研修会	8月17日（金）～18日（土）	県志津川自然の家	16人																																																																					
2	上級研修会	12月25日（火）～27日（木）	県志津川自然の家	5人																																																																					
No.	事業名	開催日	実施場所	参加者																																																																					
1	第1回代表者会議	6月17日（日）	県青年会館	2人																																																																					
2	東北子ども会JL大会	8月3日（金）～5日（日）	仙台市泉ヶ岳少年の家	1人																																																																					
3	石巻市JL研修会	8月8日（水）～10日（金）	京都市内	29人																																																																					
4	みやぎJL交流会（第1回）	5月20日（日）	岩沼市体育館	2人																																																																					
5	第1回JLフェスティバル	9月22, 23日（土・日）	東仙台小学校	8人																																																																					
6	第2回代表者会議	12月2日（日）	県青年会館	1人																																																																					
7	宮城県JL技術研修会	7月1日（日）・10月7日（日）	県青年会館	5人																																																																					
成果		<p>ジュニア・リーダーの中心的活動である子ども会からの派遣要請は震災前より減少したが、復興支援に取り組む団体の活動や市の家庭教育支援事業等に積極的にかかわることにより、活動内容の充実とジュニア・リーダーとしての資質向上を図ることができた。</p>																																																																							
成果に係る評価		<p>これまでの積極的な取り組みが少しずつ市民に認識されるようになってきておりジュニア・リーダー活動に対する需要は増加するものと予想され、子どもたちの健全育成並びに子ども会活動の活性化に資する効果は大きいと考える。</p> <p>また、多くの活動を経験することにより、リーダーとしての自覚と資質向上が期待でき、将来の石巻のリーダーとなる人材育成という点についても大きな意義があると考えられる。</p>																																																																							
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 今後も継続して取り組んでいただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 昨年度より成果が上がっていると感じました。石巻独自の研修等を実施し、ジュニアリーダーの資質を高めるとともに活動を活発に行っていただきたい。</p>																																																																							
予算の執行状況		（単位：円）																																																																							
	予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																																						
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																																																			
	466,043	323,163				323,163																																																																			

事業番号		11	事業名		コラボスクール推進委託事業																																																																																		
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()																																																																																
	6 項	社会教育費		第2節	地域全体で子どもたちを育成する		()																																																																																
	1 目	社会教育総務費		(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()																																																																																
目的及び事業内容		学校・家庭・地域が協働して、子どもたちの生きる力を育む教育活動の充実・改善を目指し、社会の中でたくましく生きる子どもを地域全体で育む。																																																																																					
取組実績		<p>1. 協働教育支援会議2回開催 10月22日 17人出席、2月19日 20人</p> <p>2. コラボスクール推進事業（市内小学校区3推進協議会へ委託）</p> <p>(1) 大須小学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>期日</th> <th>場所</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①伝統芸能継承活動「雄勝法印神楽」</td> <td>4月～10月</td> <td>大須小学校体育館他</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>②宿泊学習「うみねこキャンプ」</td> <td>7月</td> <td>大須小学校校庭他</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>③農業体験学習「枝豆の収穫と調理」</td> <td>7月～8月</td> <td>飯野川</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>④交流敬老会</td> <td>9月</td> <td>大須小学校特別教室</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>⑤工作教室</td> <td>9月</td> <td>雄勝アカデミー</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>⑥漁業体験学習「ワカメの芯抜き・ホタテの殻むき」</td> <td>10月</td> <td>北上町十三浜</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 鮎川小学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>期日</th> <th>場所</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「ふれあい支えあいプロジェクト」</td> <td>4月～3月</td> <td>鮎川小学校体育館他</td> <td>135人</td> </tr> <tr> <td>②伝統芸能継承活動「金華山黒潮太鼓」</td> <td>4月～2月</td> <td>鮎川小学校体育館</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>③伝統芸能継承活動「牡鹿七福神舞」</td> <td>9月～2月</td> <td>鮎川小学校特別教室</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>④「地域協働図書館の整備・運営」</td> <td>8月～12月</td> <td>鮎川小学校図書室</td> <td>125人</td> </tr> <tr> <td>⑤学校支援（生活科）</td> <td>2月</td> <td>仮設住宅集会所</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>⑥合同避難訓練</td> <td>7月、11月</td> <td>鮎川小学校校庭他</td> <td>190人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 寄磯小学校区コラボスクール推進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>期日</th> <th>場所</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①「寄磯大運動会」</td> <td>5月</td> <td>寄磯小学校校庭</td> <td>132人</td> </tr> <tr> <td>②祖父母参観</td> <td>9月</td> <td>寄磯小学校各教室</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>③漁業体験</td> <td>10月</td> <td>寄磯漁港</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>④「地域の子どもは地域で守る運動」</td> <td>5月～2月</td> <td>寄磯地区内通学路</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>⑤「地域の子どもは地域で守る運動」</td> <td>12月～1月</td> <td>寄磯小学校体育館</td> <td>80人</td> </tr> </tbody> </table>						活動内容	期日	場所	参加延人数	①伝統芸能継承活動「雄勝法印神楽」	4月～10月	大須小学校体育館他	91人	②宿泊学習「うみねこキャンプ」	7月	大須小学校校庭他	40人	③農業体験学習「枝豆の収穫と調理」	7月～8月	飯野川	20人	④交流敬老会	9月	大須小学校特別教室	50人	⑤工作教室	9月	雄勝アカデミー	4人	⑥漁業体験学習「ワカメの芯抜き・ホタテの殻むき」	10月	北上町十三浜	20人	活動内容	期日	場所	参加延人数	①「ふれあい支えあいプロジェクト」	4月～3月	鮎川小学校体育館他	135人	②伝統芸能継承活動「金華山黒潮太鼓」	4月～2月	鮎川小学校体育館	40人	③伝統芸能継承活動「牡鹿七福神舞」	9月～2月	鮎川小学校特別教室	20人	④「地域協働図書館の整備・運営」	8月～12月	鮎川小学校図書室	125人	⑤学校支援（生活科）	2月	仮設住宅集会所	55人	⑥合同避難訓練	7月、11月	鮎川小学校校庭他	190人	活動内容	期日	場所	参加延人数	①「寄磯大運動会」	5月	寄磯小学校校庭	132人	②祖父母参観	9月	寄磯小学校各教室	30人	③漁業体験	10月	寄磯漁港	34人	④「地域の子どもは地域で守る運動」	5月～2月	寄磯地区内通学路	64人	⑤「地域の子どもは地域で守る運動」	12月～1月	寄磯小学校体育館	80人
活動内容	期日	場所	参加延人数																																																																																				
①伝統芸能継承活動「雄勝法印神楽」	4月～10月	大須小学校体育館他	91人																																																																																				
②宿泊学習「うみねこキャンプ」	7月	大須小学校校庭他	40人																																																																																				
③農業体験学習「枝豆の収穫と調理」	7月～8月	飯野川	20人																																																																																				
④交流敬老会	9月	大須小学校特別教室	50人																																																																																				
⑤工作教室	9月	雄勝アカデミー	4人																																																																																				
⑥漁業体験学習「ワカメの芯抜き・ホタテの殻むき」	10月	北上町十三浜	20人																																																																																				
活動内容	期日	場所	参加延人数																																																																																				
①「ふれあい支えあいプロジェクト」	4月～3月	鮎川小学校体育館他	135人																																																																																				
②伝統芸能継承活動「金華山黒潮太鼓」	4月～2月	鮎川小学校体育館	40人																																																																																				
③伝統芸能継承活動「牡鹿七福神舞」	9月～2月	鮎川小学校特別教室	20人																																																																																				
④「地域協働図書館の整備・運営」	8月～12月	鮎川小学校図書室	125人																																																																																				
⑤学校支援（生活科）	2月	仮設住宅集会所	55人																																																																																				
⑥合同避難訓練	7月、11月	鮎川小学校校庭他	190人																																																																																				
活動内容	期日	場所	参加延人数																																																																																				
①「寄磯大運動会」	5月	寄磯小学校校庭	132人																																																																																				
②祖父母参観	9月	寄磯小学校各教室	30人																																																																																				
③漁業体験	10月	寄磯漁港	34人																																																																																				
④「地域の子どもは地域で守る運動」	5月～2月	寄磯地区内通学路	64人																																																																																				
⑤「地域の子どもは地域で守る運動」	12月～1月	寄磯小学校体育館	80人																																																																																				
成果	3小学校とも地区全体が震災の被害が大きく残る地域だが、学校・家庭・地域の協働の取り組みにより事業を推進した。協働で様々な活動に取り組むことで児童の「ふるさとを大切にす意識」が高まり、「人と人とのつながりの大切さ」を実感することができた。																																																																																						
成果に係る評価	震災により被害が甚大であった地域においては、学校・地域ともばらばらになり、以前と比べると協働教育の実施が困難になっている。震災から3年目を迎え、復旧期から再生期に入ろうとする今、子供を地域全体で育むために、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みづくりを行い、地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で子どもを育てる協働教育事業の重要性が増すものと考えている。復興に向かう今、地域人材はもちろんのこと外部ボランティアの力も生かしながら、地域活性化につなげていきたい。																																																																																						
学識経験者からの意見	<p>【菅井吉秀氏】 地域と一体的に活動している事業は他にもあるので、重複することがないように必要性を再検討すべきである。</p> <p>【米谷正信氏】 推進を指定された学校については継続して事業を行っていただきたい。</p>																																																																																						
予算の執行状況	(単位：円)																																																																																						
	予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																																																				
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																																																																																	
	900,000	299,306	299,306																																																																																				

事業番号		12	事業名		青少年文化芸術鑑賞事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第 5 章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()	
	6 項	社会教育費		第 3 節	地域に対する愛着や誇りをはぐくむ		()	
	1 目	社会教育総務費		(1)	多様な文化芸術活動の広がりと交流を推進する		()	
目的及び事業内容		芸術鑑賞の機会に恵まれない地域の青少年に対し、優れた生の芸術を鑑賞してもらい、豊かな情操を涵養する。 学校の総合的学習時間等を利用して、優秀な舞台芸術の鑑賞機会を提供し、感受性豊かな人間としての育成を図る。						
取組実績	1 巡回小劇場							
	開催日		場所		公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数	
	9月20日		飯野川第二小学校		劇団野ばら 創作劇		飯野川第二小学校 (児童50名)	
9月25日		鮎川小学校		劇団野ばら 創作劇		鮎川小学校・大原小学校・寄磯小学校 (児童85名)		
9月26日		稲井小学校		劇団野ばら 創作劇		渡波小学校 (児童257名)		
取組実績	2 青少年劇場小公演							
	開催日		場所		公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数	
	9月5日		橋浦小学校		ヴァイオリンとチェロの演奏会		相川小学校・橋浦小学校・吉浜小学校 (児童144名)	
9月5日		向陽小学校		ヴァイオリンとチェロの演奏会		向陽小学校 (児童106名)		
9月6日		荻浜中学校		ヴァイオリンとチェロの演奏会		東浜小学校・荻浜小学校・荻浜中学校 (児童生徒36名)		
9月7日		広瀨小学校		ヴァイオリンとチェロの演奏会		広瀨小学校 (児童166名)		
取組実績	3 子どものための優れた舞台芸術体験事業							
	開催日		場所		公演内容		鑑賞学校・鑑賞人数	
	10月1日		相川小学校		劇団ポブラ ミュージカル オズの魔法使い		相川小学校・橋浦小学校・吉浜小学校 (児童142名)	
10月2日		鮎川小学校		劇団ポブラ ミュージカル オズの魔法使い		鮎川小学校 (児童45名)		
10月16日		飯野川中学校		大阪交響楽団		飯野川中学校 (生徒143名)		
12月3日		飯野川第一小学校		中部フィルハーモニー交響楽団		飯野川第一小学校・大川小学校 (児童169名)		
2月6日		稲井小学校		劇団仲間「カモメに飛ぶことを教えた猫」		稲井小学校 (児童338名)		
2月21日		和瀨小学校		(社)落語芸術協会 落語「饅頭こわい」他		和瀨小学校 (児童119名)		
成果	児童・生徒に対し、優れた生の芸術を鑑賞する機会を提供することにより、情操を養い豊かな人間形成に寄与した。							
成果に係る評価	巡回小劇場等は、宮城県などが行うもので、市町村が一部の経費を負担するだけで質の高い芸術を小中学生へ提供できることから、今後とも継続していく。							
学識経験者からの意見	【菅井吉秀氏】 本物の芸術を本物の舞台で見せられるように取り組んでいただきたい。 【米谷正信氏】 今後も継続して取り組んでいただきたい。							
予算の執行状況	(単位：円)							
	予算額	決算額	決算額の財源内訳					
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源		
1,161,995	1,076,250				1,076,250			

事業番号		13	事業名		スポーツ振興事業																											
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第5章	心ゆたかな誇れるまち	復興計画	()																									
	7 項	保健体育費		第4節	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる		()																									
	1 目 4	保健体育総務費 体育館費		(2)	市民の主体的なスポーツ活動を支援する		()																									
目的及び事業内容		市民の一体感の醸成、市民の健康づくりと交流促進、生涯スポーツ社会の実現、成人のスポーツ実施率の向上、青少年の健全育成と交流促進、スポーツ少年団加入率の向上及び総合型地域スポーツクラブの拠点づくりを目的とし、石巻ふれあいマラソン大会、いしのまき市民スポーツフェスタ、石巻市小学生リレーマラソン大会及びいしのまきキッズ交流大会を実施するもの。																														
取組実績		<p>1 石巻ふれあいマラソン大会（旧石巻シーサイドマラソン大会） 震災の影響により開催中止</p> <p>2 いしのまき市民スポーツフェスタ 気軽に参加できるスポーツを通し、市民の健康づくりと交流、地域間の連携の強化を図りながら成人のスポーツ実施率の向上を目指した。 なお、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で実施し、更に市民スポーツ参加の底辺拡大に努めた。</p> <p>3 石巻市小学生リレーマラソン大会 スポーツを通じた青少年の健全育成、子ども達の体力・運動能力の向上と市民の一体感を醸成する事業の一環として、市内小学校及びスポーツ少年団対抗のリレーマラソン大会を実施した。なお、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」でいしのまきキッズ交流大会と合体して実施し、更に市民スポーツ参加の一翼を担った。</p> <p>4 いしのまきキッズ交流大会 市内スポーツ少年団及び小・中学校の交流により、青少年の健全育成及び地域間の連携と強化を図るため、平成24年度より、特定非営利活動法人石巻市体育協会への委託事業として「協働」で石巻市小学生リレーマラソン大会と合体して実施し、市民のスポーツ参加の一翼を担った。</p>																														
成果		<p>・震災による応急仮設住宅立地等の諸事情により、石巻ふれあいマラソン大会を中止した。</p> <p>・小学生リレーマラソン大会といしのまきキッズ交流大会を合体し、更に、スポーツ少年団交流大会と併せて実施するなど工夫を凝らし駅伝大会として開催した。</p> <p>(参加者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>石巻ふれあいマラソン大会</th> <th>市民スポーツフェスタ</th> <th>小学生リレーマラソン大会</th> <th>いしのまきキッズ交流大会</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>1,783人</td> <td>704人</td> <td>215人</td> <td>332人</td> <td>3,034人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>—</td> <td>314人</td> <td>—</td> <td>375人</td> <td>689人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>—</td> <td>197人</td> <td colspan="2">800人</td> <td>997人</td> </tr> </tbody> </table>							年度	石巻ふれあいマラソン大会	市民スポーツフェスタ	小学生リレーマラソン大会	いしのまきキッズ交流大会	計	H22	1,783人	704人	215人	332人	3,034人	H23	—	314人	—	375人	689人	H24	—	197人	800人		997人
年度	石巻ふれあいマラソン大会	市民スポーツフェスタ	小学生リレーマラソン大会	いしのまきキッズ交流大会	計																											
H22	1,783人	704人	215人	332人	3,034人																											
H23	—	314人	—	375人	689人																											
H24	—	197人	800人		997人																											
成果に係る評価		東日本大震災の影響により、石巻ふれあいマラソン大会は開催できなかったものの、体育施設の復旧状況に合わせながら、工夫を凝らした形で3事業を実施することができた。 なお、これらの事業には、「成人のスポーツ実施率の向上」、「子ども達の体力と運動能力の向上」を達成するために必要な要素が含まれていることから、被災地(被災者)の復興状況と照らし合わせながら、スポーツの振興が図られる環境づくりを推進した。																														
学識経験者からの意見		<p>【菅井吉秀氏】 状況によって事業のやり方を工夫した点は良かったと思います。今後は復興状況に合わせて、工夫しながら事業に取り組んでいただきたい。</p> <p>【米谷正信氏】 小学生リレーマラソン大会といしのまきキッズ交流大会を合体して実施したことは良かったと思います。石巻ふれあいマラソン大会についてはぜひ復活していただきたい。多くの市民が参加できるようPRの仕方を検討していただきたい。</p>																														
予算の執行状況		(単位：円)																														
		予算額	決算額	決算額の財源内訳																												
				国(県)支出金	地方債	その他	一般財源																									
		617,000	617,000				617,000																									

事業番号	14		事業名	家庭教育学級開設事業			
予算科目	10 款	教育費	総合計画	第2章	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち	復興計画	()
	6 項	社会教育費		第2節	地域全体で子どもたちを育成する		()
	1 目	社会教育総務費		(1)	地域・家庭の教育力を強化する		()

目的及び事業内容
 家庭や両親のあり方、子どもの心身の成長と子育て、子どもの成長と家庭環境等、家庭教育に関する学習の機会を提供し、子育てについての理解を深め、望ましい家庭教育ができるようにする。幼稚園、小・中学校の保護者を対象として、各幼稚園・学校単位のニーズにあった内容で学級を開設する。
 また、震災で傷ついた保護者や子供の心のケアを図り、人間同士の関わり方を学ぶ機会を設ける。

取組実績

家庭や両親のあり方、子どもの心身の成長と子育て、子どもの成長と家庭環境等、家庭教育に関する学習機会を提供し、子育てについての理解を深め、望ましい家庭教育ができるよう家庭教育学級を開設した。

- 1 開設機関 各地区（石巻、河北、雄勝、河南、桃生、北上、牡鹿）の公民館等
- 2 実施機関 各地区の幼稚園（私立も含む）、小学校、中学校
- 3 開設状況

区 分	学級数	開設学級数	開設回数	参加者
石巻地区	56学級	35学級	76回	5,710人
河北地区	13学級	7学級	13回	698人
雄勝地区	5学級	5学級	7回	96人
河南地区	14学級	14学級	28回	1,819人
桃生地区	6学級	6学級	14回	2,028人
北上地区	7学級	4学級	7回	265人
牡鹿地区	5学級	4学級	9回	184人
計	106学級	75学級	154回	10,800人

成 果

受講生のニーズに配慮した学習課題の設定と多様な学習方法の実施により、子どもの心身の発達に即した子育てや家庭学級のあり方についての理解が深まり、豊かな知識と情操、社会性を養うことができた。
 なお、東日本大震災により家庭教育学級の活動に支障をきたしている学校等があるため、より一層支援をしていく必要がある。

成果に係る評価

地域連帯の希薄化、核家族化などにより子どもを育てる環境は悪化しているため、地域・学校・家庭の交流の場づくりや学習支援や学習情報の提供が重要になってきている。今後も、地域・学校・家庭の連携強化を図るとともに、家庭教育の大切さを理解していただきながら、家庭教育の担い手である親への学習機会や学習内容、情報提供等を一層充実していく。
 なお、未実施機関については、事業の必要性を理解していただき実施するよう働きかけ、学級開設の範囲拡大に努めていく。

学識経験者からの意見

【菅井吉秀氏】
 参加しない方が参加できるような取り組みを検討していただきたい。

【米谷正信氏】
 必要性は十分あるので、内容の充実に取り組んでいただきたい。

(単位：円)

予算の執行状況	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国(県)支出金	地方債	その他	一般財源
	698,000	698,000	698,000			

